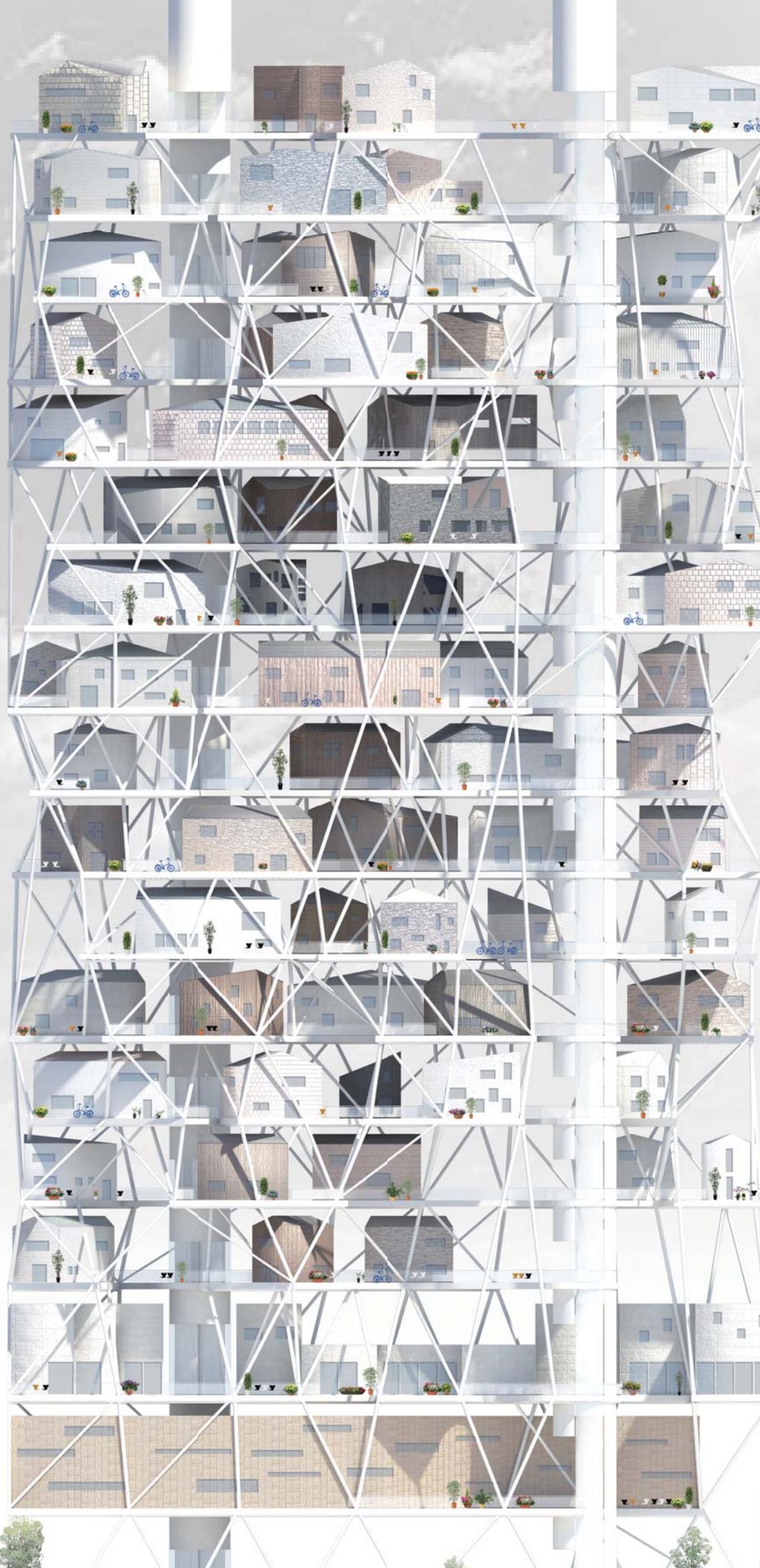


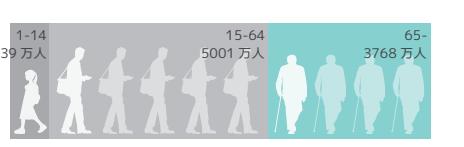
# COMPACT CITY - 空に伸びる宅地 -

近い将来、人口減少と高齢化によって、地域コミュニティは崩壊するだろう。スプロールを続けてきた都市には、人口減少によって虫食い状に空き家があふれ始める。自動車に頼って成り立っていた生活は、高齢化によってその行動力を失い、高齢者を家中に閉じ込める。経済的に余裕のある人々は、不必要な地域から便利な地域に移り住み、残された人々はより一層家のなかから出られなくなってしまう。こうならないために、これらの社会は公共交通と徒歩による移動を前提としたコンパクト・シティとなるべきである。これは、駅へのアクセスが悪い密集住宅地域の人たちに、そのコミュニティごと、東京の中心地有楽町に移住してもらう計画の提案である。



ELEVATION 1:500

## 1. 2020 COMPACT CITY - 省エネとアクセス -



高齢化  
2050年には約10人に4人が高齢者となると予測されている。現役世代では高齢者を支えきれなくなり、ある程度高齢者自身で自ら生活していかなくてはならない。

人口減少  
2013年 2050年

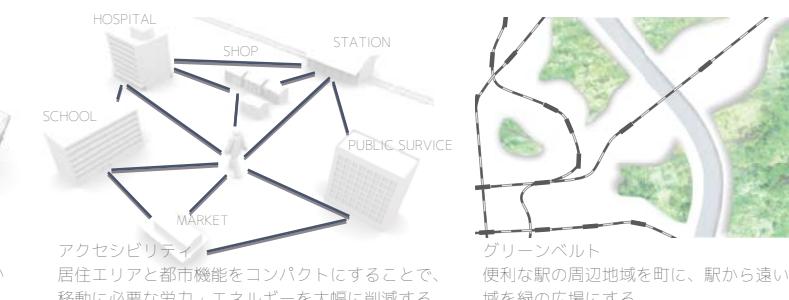
75% 2050年

自動車社会  
都市における大量の駐車場や排気ガスによる空気汚染など、自動車が原因となる問題は少なくない。それから社会が縮小されることは避けられない。

脱車社会  
駅から徒歩による移動を中心とした社会への移行する。

→

AUTOMOBILE → TRAIN → PEDESTRIAN



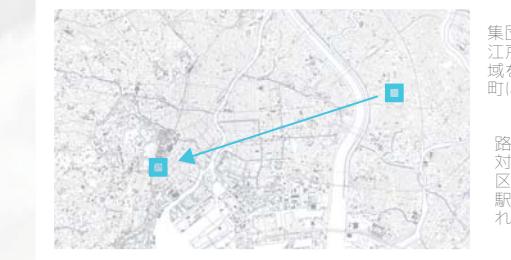
グリーンベルト  
居住エリアと都市機能をコンパクトにすることで、移動に必要な労力・エネルギーを大幅に削減する。

Daycare Housing Market

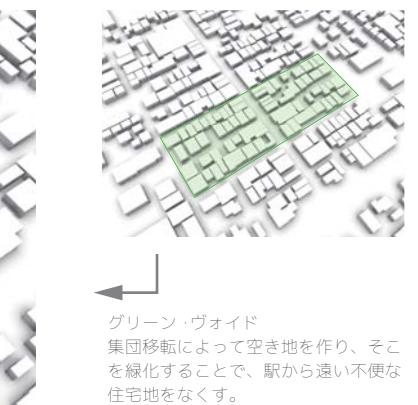
敷地 900m<sup>2</sup> = 13500m<sup>2</sup> 個人住宅 : 73戸 = 10000m<sup>2</sup>

老人ホーム / 保育園 : 2000m<sup>2</sup> マーケット = 1500m<sup>2</sup>

## 2. PROJECT AREA - 不便な地区から便利な地区への集団移転 -



## 3. MASSIVE EMIGRATION - 手法: ご近所コミュニティごと積み上げていく -



住戸数 : 73戸

延べ床面積 : 10000m<sup>2</sup>

地域内関係性の保存

元々近所に住んでいた人を、そのまま丘所にし、建物の規模と数を保存することで、地域内の関係性を継承する。

積み上げ戸建て住宅

元々平面的に展開していた戸建て住宅と同数・同規模の戸建て住宅を、立体的に積み上げる。



PLAN 1:300 6014